

寸劇①

津波からの避難計画づくり

【ナレーター】

【登場人物】

自治会長（男性・六十代）

女性部部长（女性・六十代）

民生委員（女性・七十代）

子ども会役員（男性・四十代）

（4人分の椅子と机を配置。座っているのは自治会長、民生委員のみ）

ナレーター…

ここは、海沿いのある地域の自治会館です。大地震で津波が発生することが予測された場合に、どんな体制で避難をすればいいのかについて話し合うことになっています。さて、どんな話し合いになるのでしょうか……。

女性部長…

（サイドから小走りに入ってきて）
こんばんわーっ！遅くなってすみませんねー！出がけに宅急便屋さんが来たりして、バタバタしちゃって、ほんとすみませんねー！
（と言いながら着席する）

自治会長…

（立ち上がって）
お疲れ様です。まだ来てない方もいますが、時間を過ぎていますから始めましょう。今日は津波からの避難体制について話し合いをしたいと思いますですが、自治会役員で大体の計画を作りましたので紹介します。（地図を広げて示しながら）各班ごとに避難誘導の責任者を一人立ててください。また、本人に承諾をとって、各班の高齢者と障害者のお住まいの場所がわかる地図を作りました。両隣や向かい側の方など最低

でも二世帯が、災害直後は避難するよう、声掛けと避難のお手伝いをする係になってください。昼間、家にいることの多い主婦の方には、支援者として期待していますので、特に女性部さん、会員さんへの働きかけをよろしく願います。だいたいこれでいけると思いますが、もし何かあればご意見をお願いします。

(着席する)

女性部部长…

(立ち上がった)

では私から。改めましてこんばんは。計画づくりありがとうございます。ただ、主婦といっても最近はお外に働きに出ている人も多く、昼間はお留守というお宅も多いんですよ。それからお隣でなくても、日頃から親しい近所の高齢者の方を気遣って声を掛けたり、様子を見に行くという人も結構います。という事で、家が近いかどうかだけで支援者を決めても、うまくいかないような気がするんです。計画を作るときに、女性の方は参加していたんでしょうか？

(着席する)

自治会長…

(座ったまま、頭をかきながら)

いや、自治会役員で話したんですが、男ばかりでした…。

(ここで、子ども会会長が遅れて来て、女性部長の招きでその隣の席に向かいながら)

子ども会会長…どうもどうも、遅れてすみませんでした。仕事が長引きましたね。(着席する)

(隣の女性部長が、子ども会長に、資料を示しながら途中経過を説明している様子)

民生委員…

(立ち上がりながら、子ども会会長にこんばんわ、と普通に言った上で)

では、民生委員の私から。まず高齢者・障害者といっても、家族がいる方と一人暮らしの方では、必要な

支援は違うのではないのでしょうか。子どもたちと同居していても、昼間は一人という高齢者も多いですし、週に何度かデイサービスに行っている方もいます。そういうこともある程度分かった上で、安否確認や支援の仕組みを作らないと、無駄な動きが出るような気がしました。（着席する）

自治会長…

（以降、全員座ったままで）

たしかに、女性でも最近は働いている方が多いですね。

女性部長…

自治会の役員の方が避難体制を考えて下っていること、とても感謝しています。ただ、地図づくりや避難体制づくりの話し合いの、最初の段階から女性部のメンバー入っていたら、もっと細かい情報を入れられたかなと思いますので、今後は遠慮なく声をかけてください。

自治会長…

ほんとにそうですね。心強いです。子ども会さんはいかがですかね？

子ども会会長…

子ども会会長です。遅れて来てすみません。わたしの場合、昼間は隣の町で働いていますので、うちと同じように小さいお子さんを抱えたお母さんや、妊婦さんのことも気にかけていただけると、ありがたいです。もしも平日昼間の災害で妻がケガをして動けなかったら、その時子どもはどうなるんだろうと想像するだけで、ぞつとします。（自治会長を見ながら座る）

自治会長…

うーん、高齢者の方だけでもかなり人数が多いので、お子さんのいるご家庭にまで支援というのは難しいですねえ。。。なんとか自力で頑張ってもらえないかと。。。まあ、乳幼児がどのぐらいいるか、人数の把握ははましようかね。

民生委員…

でも、乳幼児世帯って言っても、子どもたちもすぐ大きくなるし、新しい子も生まれてくるし、人数を把握するっていつても結構難しいんじゃないかしら？それに若い人だと、家庭内の事情は他人に言いたくない人も多そうだし。

子ども会会長…難しいかもしれませんが、乳幼児対策も検討してください。でも、たしかに親御さんたちにも、もっと積極的に防災対策に取り組むように改めて働きかけないといけませんね。私はこうした会議の場でのいろいろな考える機会が出来ましたが、他の人たちはなんとか逃げられるだろうという感じで、もう少し単純に考えているかもしれません。それから、この地域の企業さん連携できないのでしょうか？

自治会長… たしかに、企業さんの連携は大切ですが、協力してくれるかなあ。

女性部長… あとね、女性は家事・育児・介護・仕事と1日中忙しいので、会議の曜日や時間も前もって相談いただけないでしょうか？それに、会議が何時に終わるかわからないというのも主婦には困るんです…。

子ども会会長…それ、わかります。若いお父さんたちの中には、土日や夜遅くまで働いている人もいますし。

自治会長… (ふんふんとうなずき終えて)

確かに時代は変わっていますから、会議の持ち方自体も工夫が必要ですね。やはり防災の話し合いも訓練も男ばかりではまずい。お互いの立場や時間、アイデアをうまく活かし合うことが大事ですね。(立ち上がって)今日はありがとうございました。引き続き皆さんと一緒に検討していきたいと思しますのでよろしく願います！

全員… (明るい顔で)

お疲れ様でしたっ！

(バラバラと立ちあがって、おやすみなさい、などと言いながら、椅子を持って片付けながら、三々五々解散。黒子が、机を舞台の後ろに寄せる。)

ナレーター… いかがでしたか？みなさんの地域でも、このような話し合いができるといいですね。

寸劇② 避難所運営ってたいへん!?

【ナレーター】

【登場人物】

避難所運営委員長・地域役員経験者（男性・六十代）

行政職員（男性・三十代）

炊き出し担当（女性・七十代）

女性AⅡ女性高生（女性・十七歳）

女性BⅡPTA役員（女性・四十代）

女性CⅡ乳幼児の母親（女性・三十代）

ナレーター…

ここは、大規模災害を受けて開設された小学校の避難所です。地域の役員経験者が避難所運営委員長となり、市役所から派遣された職員と一緒に懸命に避難者のお世話をしていますが、みなさん大変そうです。さあ、何が起こっているか見てみましょう。。。

女性A…

（上手からおずおずと行政職員に近づきながら）
あ、あのう…。

行政職員…

（首にかけてたタオルで額をぬぐいながら振り返って）
はい？なんですか？

女性A…

ええと、ええと、（思い切って言う感じで）生理用品が欲しいんです！できれば夜用のが。

行政職員…

よ、夜用？

女性A .. ええと、大きいやつです。あと、サニタリーショーツもお願いします！

行政職員 ..

(困惑しながら)

大きいってLってこと？なんとかショーツって何かな？

女性A ..

わっ、わかりました、すみません、またあとで来ます！

(と言って、下手へ行き、悲しそうに立って静止)

行政職員 ..

女性用品なんて俺に分るわけないだろう！ああ、くそっ、地震から一度も家に帰ってない。家族が心配だ！

(タオルで顔を覆う。その状態で立ったまま静止)

女性B ..

(遠慮がちに)

すみません。避難所運営委員長さんですよ？

委員長 ..

(疲れ切った様子でつつけんどんな感じに振り返りながら)

なんですか？

女性B ..

(ちよっとひるんだ様子で)

実はお隣に寝ているお年寄りのご夫婦の、介護用のオムツのご相談なんです。Lが欲しいんですが、なか手に入らなくて。

委員長 ..

倉庫のところにいる物資担当者に言ってください、たぶん市役所も混乱してるんですよ！

女性B ..

そ、そうですね！あの、私はこの学校のPTAの役員をしてるので、物資の相談とか育児関係の要望のと

りまとめとか、お手伝いできますけど。

委員長：

ありがたいが、防災のことが分かってない人に手伝ってもらっても、かえって混乱するんで遠慮しとくよ。ああ、だったら炊き出しの手伝いを頼むよ。それだったら、できるでしょう。

女性B：

わ、わかりました…。

(と言って、悲しそうな顔で下手に歩いていき立った状態で静止)

委員長：

(その場でさげす)

もう一週間まともに寝てないっ！ああ、避難所運営がこんなに過酷とは！

(と頭を抱えて下を向きながら立って静止)

女性C：

こんにちは！忙しいところすみませんが、ちょっとご相談が…。

炊き出し担当：

(エプロンで手を拭きながらせかせかせかした感じで振り返る)

はいはい、なあに？

女性C：

いつも炊き出しありがとうございます！実はうちの子、卵と牛乳が食べられないので困っているんです。

炊き出し担当：

お母さん、だめよー、子どもにわがまま言わせちゃ！

女性C：

えっ？違います、食物アレルギーなんです！他のおうちの子でも、鶏肉とか、マヨネーズとか、小麦とか、

お魚とか、トマトとか、りんごとか、あとはええと…。

炊き出し担当：

食物アレルギー？うーん、…、ごめん、今度、市役所の人に聞いておくから。いま忙しくて、手が離せない

の。また今度ね！！ほんとごめんね！

女性C .. なんとかお願いしますー！（おじぎしながら上手袖に行き、正面向いて静止）

炊き出し担当 .. 食物アレルギーなんて、昔はなかったし、私にはどうしたらいいのか、全然分からない！（頭をかきむしる感じで、正面を向いたまま静止）

（委員長が顔を上げて前にゆっくりと歩きだしながら）

委員長 .. 地域のみなさんをなんとか守らないといけないが、こんなに大変とは。あと何日この状態が続くんか・・・

（と言ったところで、ふらつとして床に倒れ込む）

（委員長！大丈夫ですか！などといいながら、その他全員が駆け寄り、心配そうに委員長の顔を覗き込みながら）

委員長 .. ああ、大丈夫。ちょっと疲れがたまっていたようだ。

女性B .. P T Aも、地域や学校のことはある程度分かっていますから、手伝わせてください。

女性A .. あの、私たち高校生も手伝えますので、言ってください。女性用の物資の受付なんかだったら、すぐにみんなですみます！

行政職員 .. そりゃ助かるよ！

女性C .. 炊き出しも、中華料理店のご主人とかレストランのコックさんに手伝ってもらったらどうでしょう？

委員長..

そうか、最初からみんなにいろいろと担当をお願いして、一緒にやればよかつたんだねえ。。。よし、もう一度、どういう体制がいいか、話し合わせてもらえますか？

全員..

(元気に、大きくなずきながら)
はいっ！

(と言ったら、少し3秒ほど静止。ナレーションが始まったら静かに退場)

ナレーター..

いかがでしたか？ 避難所運営では、いろいろなことが起こるのですね。平常時から、避難所の使い方や雲影方法について、男女一緒に話し合える場を作っておきましょう。

寸劇③

生活再建の途上で…

【ナレーター】

【登場人物】

シングルマザー（女性四十代）

仮設住宅で妻を介護する男性（男性七十代）

元飲食店経営の夫婦の夫（男性、六十代）

元飲食店経営の夫婦の妻（女性、六十代）

ナレーター…

では最後の寸劇に行きます。演題は、「生活再建の途上で…」です。

被災時の困難に、人それぞれ違いがあるように、復興期の大変さも人によって違いがあります。子育て、介護、事業や住宅の再建などの問題を抱えた四人の被災者の方のお話を聞いてみましょう…。

（シングルマザーが上手から登場、中央に立って会場に語りかける）

シングルマザー…わたしは四十代、小学生と幼稚園の子どもを抱える母子家庭です。離婚後、実家に戻り、母親に育児を手伝ってもらいながら、パート勤めをしてなんとか生活していました。家賃も要りませんでしたし、母が子どもの面倒を見てくれて、畑でちよつとした野菜も育てていたので、現金収入が少なくてもなんとか生きていました。地震のあとの大津波で、自宅も母親も亡くなりました。勤め先も廃業になり、失業しました。いまは町の中心部から離れた仮設住宅で暮らしていますが、不便なところで、近所には保育園もなく、子供を預けられないので、新しい仕事も見つけられていません。わずかな貯金を切り崩しながらの生活ですが、この先どうしたらいいのでしょうか。途方にくれる日々です…。

（セリフを終えて3秒静止したら、しずかに下手に退場）

(シングルマザーが動き始めたらず、介護する男性が買い物のビニル袋を提げて上手から登場、中央に立って会場に語りかける)

介護する男性…

わたしは七十代、被災後に認知症を発症した妻を介護して仮設住宅で暮らしています。震災前は同居していた息子夫婦は、震災で商売がだめになったため、家族と一緒に仕事のある大都市に行ってしまう。わたしら夫婦は仮設住宅なんで、隣近所に知り合いはないし、知らない人に助けてもらったり、迷惑をかけることもできません。自分たちのことは自分たちでなんとかするしかありません。わたしは家事も一切、妻に任せきりだったので、最初は料理も味噌汁をつくるのがやつとでしたが、ほら、(ビニル袋を見せながら苦笑気味に)少しはましになったかと思えます。妻の認知症は最近かなり進んできて、あまり目が離せないため気が気ではありません。毎日毎日、妻と二人きりで、話し相手もいません。オムツ替えも、食事の世話も、自己流でやっていますが、私のような高齢の男に、いまさら介護のやり方を教えてくれる人もいません。先日は、つい、妻に向かって怒鳴ってしまいました。くたくたです。妻が夜中に起き出すこともあるので、夜中に仮設のみなさんに迷惑をかけちゃいけないと、私は夜も眠れていません。年をとったら、最後は妻に面倒見てもらうぞ、と思ったら反対で、トホホですわ。でも、がんばりがいがありますよ。ええ、最後まで他の人に頼らずに妻の介護をやり抜きます。あ、もう帰らなくては。ではでは。

(会釈をしたら、すぐに下手に退場)

(介護する男性が動き始めたらず、夫婦が上手から登場、二人そろって中央に立って、夫から会場に語りかけはじめる。妻は 前を向いて静止したまま)

夫…

(手に持っている郵便物から紙を取り出して)
市役所から自分宛の郵便だ、何だろう。「復興まちづくりアンケート」か。
(ふと前を向いた、という感じで)

あ、わたしは飲食店経営者の六十代です。津波が来る前は、港近くの商店街で居酒屋を経営して、商店街組合の役員として町おこしも自分が引っ張ってきました。仲間たちも頑張ろうとしているんだし、なんとかしてももう一度、商店街を再興しなくてはと思っています。もちろん不安もありますが、この町を再び元気にするために弱気にはなっていられません。さて、アンケートもちゃんと書くぞ！

(ポケットからペンを取り出し、書くポーズをして静止)

妻..

わたしは飲食店経営者の妻で六十代です。元の町はとても暮らしやすく、よい思い出ばかりです。ただ、夫は海に近い町場でもう一度お店を再建したいと言っています。その気持ちも分かるのですが、私は、あのものすごい津波の恐怖をまだ覚えています。それに、この年になって貯金をはたいて、借金してまでお店を再建して、本当にやっていけるのか・・・かといって、高台で住まいを再建しても、生活の便はどうなるのかしら？買い物とかお姑さんの通院とか心配だわ。それに（内緒話をするような感じで）実は、夫は反対しているんですけど、同居していた息子家族は、もう隣町に家を建てるつもりなんですよ。（ふと気づいた感じで空を見ながら一人ごとをつぶやく感じで）あら？そういえば、復興まちづくりのアンケートってどうして各世帯に1枚しか来ないのかしら？お父さんが答えればそれでいいのかしら？私や息子は回答しなくていいの？それに、市の復興計画をつくるための委員会っていうのも、女性や若い人ってほとんど入ってなかったような気が・・・。

(腕を組み、おかしいなあ、という感じで首を横に傾けた状態でしばし静止。その後、ナレーターシーンが始まったらすぐに夫・妻ともに下手へ退場)

ナレーター..
いかがでしたか？母子家庭の被災後の生活の厳しさ、他人や公的機関に助けを求めようとしないで介護の負担を抱え込む男性、夫婦や親子の間での復興に対する気持ち・考え方の擦れ違いなど、人によっていろいろな問題があるのですね。

(以上)